

哲学会

第五十回研究発表大会
平成二十三年十二月三日、四日

東京大学本郷キャンパス法文2号館
二番大教室・教員談話室

第一日（十二月三日）

◇午前 11 時～ 11 時 50 分

特別講演

リチャード・ディーツ

◇午後 13 時～ 15 時 15 分

文化の意味について—土田杏村の場合

清水 真木

中世哲学における行為論の構図—意志と行為

山内 志朗

自然の内に生きる—神秘主義の原郷を探ねる

加藤 信朗

◇午後 15 時 30 分～ 17 時 30 分 ワークショップ（二会場）

実験哲学と心理学のはざま

唐沢 かおり 萬屋 博喜 信原 幸弘

ひとりであることと共にあること

あるいは「間柄」と「各自性」をめぐる対論

—和辻・ハイデガーの読み直しのために—

古荘 真敬 飯嶋 裕治 佐々木 一也

第二日（十二月四日）

◇午前 9 時 40 分～ 11 時 40 分

認識的所与について

石田 崇

カント認識論における「総合」について

和田 慈

世界の開けと抵抗および脱抑止の概念

—ハイデガーとシェラーを比較して

串田 純一

◇午後 13 時～ 16 時 30 分

シンポジウム

〈語りえぬもの〉をめぐる

永井 均

入不二 基義

野矢 茂樹

植村 恒一郎（司会）